

NMT を用いた脳卒中慢性期の上肢リハビリテーション：2 症例における介入方法と適応性の比較と検討

はじめに：治療的楽器演奏（TIMP）は脳卒中後の上肢リハビリテーションに適している。TIMP の実施方法は定義されているが、患者の適応性や、自宅での実施方法などに関する症例報告が少ない。今回は、TIMP を用いた実際の臨床の様子などを 2 症例を通して報告する。

方法：2 症例に週 2 回 6 週間自宅で TIMP を実施した結果を質的、量的、観察データで示す。

結果：障害が軽度で、複雑な医療的ニーズが少ない症例は 6 週間後に著しい改善を認めた。特につまみ動作では、1 本のペグに 20 秒かかっていたのが、120 秒で 15 本のペグを移動できるようになった。2 人目の症例は、水を注ぐ動作に 44 秒かかっていたのが、13.16 秒と時間が短縮した。

考察：脳卒中の重症度がリハビリテーションの結果に大きく影響する。TIMP のプロトコルの柔軟性、ペース配分であったり全体的な動的輪郭の形成を助けることにより、リハビリテーションを継続することや動作の同調を促した。自宅で行う場合は、交通手段、部屋の音響や広さを調べておく必要がある。評価方法として、治療的効果を明らかにするためには、代償動作の検知、動作の滑らかさやスピードを評価する必要がある。